椿姫（1937）

CAMILLE

メディア 映画
ジャンル ロマンス　ドラマ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 109分
初公開日 1937/08
公開情報 劇場公開

【解説】

ヴェルディのオペラでも知られる、小デュマによる有名な戯曲及び小説の映画化。脚色は豪華な布陣で、当代一流の女流脚本家マリオンにエイキンス、それに作家のヒルトンが手伝っている。サイレント時代のナジモヴァの名演も風格があったが、ガルボはその気品といい、匂うような女らしさといい、それを上回る素晴らしさだった。

１８４７年のパリ。社交界の花形マルグリット・ゴーティエは、世話役のプリュダンス夫人にロシアのバルビル男爵を紹介すると言われ、オペラ見物の桟敷席に座る。夫人の言う一階の二列目の男性客をオペラグラスで覗くと、一人の美青年がにこやかに微笑みかけた。彼女は彼を男爵と信じたが、実はその幾つか隣の席の男がバルビルで、彼はアルマン・デュバル（テイラー）という学生だった。結局、男爵とも知己となり、彼と金のために同棲するマルグリットだったが、その留守中、競売場で再会したアルマンと急速に親密になる。彼女の家で催されたパーティ。うまいこと他の招待客を追い払うとマルグリットは、アルマンと二人で夕食を取ろうとするが、突然、男爵が帰宅し彼を追い返す。だが、彼への思いは募る。魅力的な田舎での生活の誘いに応じ、結核療養を理由として男爵に告げると、怒った彼は別離を宣言。牧歌的な愛に満ちた田園での暮らしで二人の絆は強まる。揃って出席した友人の結婚式で、お互いに永遠の愛を心に誓うのだった。しかし、アルマンの父の来訪で全てが変わる。一人で彼に会ったマルグリットは子を思う父の情に抗う気持ちになれなかった。そして、故意に高慢に振舞い、アルマンを呆れさせ、男爵のもとに戻る。彼女の心は最早死んだも同然で、病は急速に悪化。が、事情を知らぬアルマンが頑なな心を解き、再び彼女を訪ねたのは、その死期も近づいた時だった。彼の来訪を聞き、ふらふらの体で化粧台に向かうガルボの演技は神がかっている……。まさに彼女のためにある役、最高の適役！

【クレジット】

監督	ジョージ・キューカー	George Cukor
原作	アレクサンドル・デュマ・フィス	Alexandre Dumas Fils
脚本	ゾー・エイキンス	Zoe Akins
	フランセス・マリオン	Frances Marion
	ジェームズ・ヒルトン	James Hilton
撮影	ウィリアム・Ｈ・ダニエルズ	William H. Daniels
	カール・フロイント	Karl Freund
音楽	ハーバート・ストサート	Herbert Stothart
出演	グレタ・ガルボ	Greta Garbo
	ロバート・テイラー	Robert Taylor
	ライオネル・バリモア	Lionel Barrymore
	エリザベス・アラン	Elizabeth Allan
	ジェシー・ラルフ	Jessie Ralf

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

ヘンリー・ダニエル	Henry Daniell
レノーア・ウルリック	
ローラ・ホープ・クルーズ	Laura Hope Crews
レックス・オマリー	
ラッセル・ハーディ	Russell Hardie
Ｅ・Ｅ・クライヴ	E.E. Clive
ダグラス・ウォルトン	Douglas Walton
フリッツ・ライバー・Ｊｒ	Fritz Leiber Jr.

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.